

Istanbul Weekly vol.5-no.13

イスタンブール ウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2016年4月8日（金）

— 今週のポイント —

- 政治**：エルドアン大統領、オバマ大統領と会談。
EUとの合意に基づき、トルコへの難民の再送還開始。
- 経済**：3月のインフレ率、低下。
アタテュルク空港の利用客数、2015年は世界で11位。
- 治安**：豪州がアンカラとイスタンブールの渡航情報を引き上げ。
イズミルで爆弾テロ容疑により3名を拘束。
トルコに対する攻撃を目的としてPKK主導の人民統一革命運動が結成。
- 軍事**：トルコに撃墜されたロシア機操縦士殺害者をイズミルで拘束。
米軍や職員の家族がインジルリッキ基地を出発。
- 社会**：イスタンブールの公共交通機関利用者数が激減。

政治

【内政】

●ダーヴトオール首相、ディヤルバクル市スルで復興を強調

1日、ダーヴトオール首相は、対PKKオペレーションの中心地の一つとなったディヤルバクル市のスルを訪問した。9人の閣僚とともに市民の前で演説した同首相は、観光分野を軸とする10項目の復興策を発表し、ディヤルバクルのテロからの復興・再建を力強く進めていくと述べた。（4月2日付M紙17面）

【外交】

●エルドアン大統領、オバマ米大統領と会談

核セキュリティ・サミット出席のため訪米したエルドアン大統領は、オバマ大統領と50分間にわたり会談。シリア問題を始めとする地域情勢、テロとの闘い等について協議した。エルドアン大統領はシリア情勢に関する協議においてオバマ大統領に対し、PKKと同様にPYDをテロ組織として扱うべきであり、北シリアのPYDの独立は認めない等のトルコの立場を強調した。また、同大統領はバイデン副大統領とも会談した他、シンクタンクでの講演や在米ユダヤ人団体との間でも会合を持った。（4月2日付H紙1面他）

●ナゴルノ・カラバフ問題に関するトルコ政府反応

ナゴルノ・カラバフにおけるアゼルバイジャンとアルメニアの衝突を受けて、トルコ外務省は2日、アゼルバイジャンに対するアルメニアの攻撃を非難し、アゼルバイジャン同胞の死亡に弔意を表するとともに、アルメニア側に対して速やかな停戦を呼びかける内容の声明を発表した。また、ダーヴトオール首相は、「トルコは常にアゼルバイジャンの同胞とともにある」と述べた。（4月3日付M紙1面他）

●EUとの合意に基づき、トルコへの難民の再送還開始

4日、EUとトルコ間の難民に関する合意に基づき、3月20日以降にギリシャに非合法で渡航した難民の内、ギリシャ側で難民認定申請を行わなかった者など202名が、ギリシャ・レスボス島等から船でトルコに再送還された。アフガニスタン人、パキスタン人等が中心で、シリア人は2名のみ。また、同合意に基づき、トルコから同日シリア難民32名がドイツ、同じく11名がフィンランドに再定住のため空路で移送された。（4月5日付M紙1面他）

●ダーヴトオール首相、フィンランドを訪問

6日、ダーヴトオール首相はフィンランドを訪問し、スピラ首相と会談した。同会談後の記者会見でダーヴトオール首相は、今年で90周年を迎えた両国関係を祝しつつ、貿易額を現状の13億ドルから50億ドルに拡大することを目指したいと述べた。また、スピラ首相は、EU・トルコ間合意に基づき、今後1000人のシリア難民を受け入れる用意があると述べた。（4月7日付M紙16面）

経済

【マクロ経済】

●2月の貿易赤字額、縮小

統計庁の発表によると、2月のトルコの貿易赤字額は前年同月比32.8%減少し32億ドル。輸出は同1.4%増の124億ドル、輸入は同8.1%減の156億ドル。EUへの輸出は同10.8%増加し57億ドルとなり、輸出全体の46%を占めた。国別ではドイツへの輸出が12億ドルで最大。輸入先は中国が21億ドルで最大。（4月1日付DAILY SABAH紙インターネット版）

●3月のインフレ率、低下

統計庁によると、3月の年間インフレ率は、前月の8.78%から7.46%に低下。食料及びノンアルコール飲料価格が年

間ベースで 4.5%低下したことが影響。投資エコノミストのキョムルジュオール氏によると、ロシアの対トルコ経済制裁における農作物の輸入禁止措置が食料価格低下に一定の役割を果たした。シムシェッキ副首相は、インフレ率低下を評価しつつも、コアインフレ率は依然 9.5%程度であり、引き続きインフレ率低下に向けて取り組むと述べた。(4月5日付 HDN 紙 10 面)

【観光関連】

●トルコ、100万人のウクライナ人訪問客誘致を目標

3月30日、ウナル文化観光相は第22回ウクライナ海外旅行フェア(UITT)において、ウクライナからの訪問客数100万人の誘致を目標としていると述べた。2015年の訪問客は70万人。(4月1日付 HDN 紙 11 面)

●文化観光相、観光業の回復に楽観的

ウナル文化観光相は、今年のトルコの観光業について、治安への懸念やロシア観光客の減少にも関わらず、20%の損失に抑えることができるとの見方を述べた。現状ではイタリアやスペインからの予約が既に数多くあることや、今後、より多くのイラン人観光客を誘致する方針であることを踏まえての発言。(4月5日付 HDN 紙 10 面)

●観光業界、公務員向けキャンペーンを計画

6日、トルコの観光業界は、観光客数減の損失を埋めるべく、公務員向けの30%割引キャンペーンの計画を文化観光大臣に提出。本計画が実施される場合、公務員及びその家族は早期予約割引35%に加えて30%の割引を受けられることになる。(4月7日付 DAILY SABAH 紙インターネット版)

【企業等の動き】

●ソニー・ピクチャーズ・テレビジョン、トルコテレビ局に投資

ソニー・ピクチャーズ・テレビジョンは、トルコのプラネット TV プラットフォームの過半数の株式を取得。同社のスチュワート上級副社長は、トルコは活発な市場であり、プラネット社と知識や経験を共有することでポートフォリオを強化し、強力な国際ブランドを確立したいと述べた。(4月6日付 H 紙インターネット版)

●ターキッシュ・エアラインズ、ブリュッセル便再開

ターキッシュ・エアラインズは、現在運休中のブリュッセル便を8日に再開すると発表。ブリュッセル国際空港は3月22日のテロ後閉鎖していたが、4月3日に一部再開している。(4月7日付 HDN 紙 11 面)

●エネルギー15社、イスラエル天然ガスに注目

トルコのエネルギー関連企業15社は、イスラエルからトルコ経由でヨーロッパに供給する天然ガスパイプラインのコンソーシアムへの参加に関心を示している。トウルジャス社 CEO のアクソイ氏は、同パイプラインが5年以内に建設される可能性があるとして述べた上で、天然ガスの供給元を多様化することにより、今後の天然ガス価格交渉がトルコにとって有利になるとの見方を示した。(4月7日付 HDN 紙 1、10 面)

【その他】

●第4.5世代移動通信システム、トルコで使用開始

第4.5世代移動通信システム(4.5G)が4月1日からトルコで使用開始となった。4.5Gによりインターネット通信速度が10倍にまで加速すると見られる。4.5Gの技術への移行は段階的に行われ、今年末までにはトルコの全81県で使用可能になる見通し。(4月1日付 HDN 紙 11 面)

●1-3月に少なくとも415名が労働災害で死亡

労働問題関連のNGO、労働者健康安全会議(ISIGM)によると、今年の1-3月に、少なくとも415名のトルコ人が労働災害で死亡した。3月の死亡者数は、前年同月比9%増加し157名で、14才以下の子供が4名含まれる。同月の死亡者数を業種別に見ると、多い順に農業(34名)、建設業(33名)、交通(21名)。(4月6日付 HDN 紙 11 面)

●アタテュルク空港の利用客数、2015年は世界で11位

国際空港評議会(ACI)の発表によると、2015年のアタテュルク空港の利用客数は6184万人で世界11位。2014年の11位はフランクフルトであったが、2015年は同空港をアタテュルク空港が抜いた。2015年の1位はアトランタ(1億150万人)で、北京(8994万人)、ドバイ(7801万人)、シカゴ(7690万人)、成田(7532万人)、ロンドン(7500万人)、ロサンゼルス(7490万人)、香港(6820万人)パリCDG(6580万人)、ダラス(6410万人)と続く。(4月7日付 HDN 紙 11 面他)

治安

●ディヤルバクルでPKKの車両爆弾により6名が死亡

3月31日、ディヤルバクルのバスターミナルで発生した車両爆弾により、6人の警官が死亡、一般市民を含む少なくとも20人が負傷した。PKKが警察の通勤バスを狙ったものと見られる。(4月1日付 HDN 紙 1 面)

●86%の女性が暴力被害に一家族省調査

家族社会政策省の最近の調査によれば、86%の女性がパートナーや家族からの精神的・肉体的暴力により法的措置に訴えたとし、女性に対する暴力の横行を示している。この調査では、10県841名の女性にインタビューが行われ、暴力を認めた男性は479名、一方、法的措置に訴えた女性の内、43%は依然として相手との関係を継続しており、また、64%の女性が既婚女性である。(4月1日付 HDN 紙 2 面)

●外出禁止令が解除されたシュルナック県イディルへ住民が戻り始める

3月31日、PKKに対する軍事的オペレーションのために続いていた外出禁止令が43日振りに解除され、イディルの住民が自宅へ戻り始めた。しかし、多くの住宅やオフィスは破壊され、家に戻ることができても、電気や水が供給されていないところが多い。(4月1日付 HDN 紙 3 面)

●豪州がアンカラとイスタンブールの渡航情報を引き揚げ

3月31日、豪州外務省は引き続き旅行者や欧米人に対するテロ攻撃の可能性が高いとして、アンカラとイスタンブールに対して渡航情報を改訂し、「渡航の是非検討」を発売した。(4月1日付 C 紙 7 面)

●ISIL 自爆テロ容疑で5人を指名手配

3月31日、トルコ警察情報課は、2014年1月17日に家族とともにトルコへ入国したアブ・アイマン・アト=マグリビがISILとして自爆テロを起こす可能性があるとして、他の4名とともに指名手配した。(4月1日付 HT 紙 15 面)

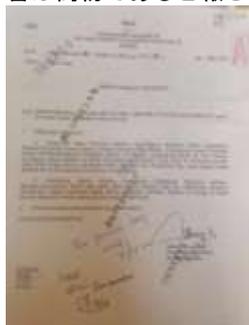


(写真は4月1日付 t 24 紙インターネット版から)

●アンカラとイスタンブールにおけるテロ計画に関する情報の真偽

(1)4月2日、アンカラにある軍参謀本部のギェルハーネ医療アカデミー指令部によって作成されたとされる3月29日付文書が流出した。同文書では、アンカラやイスタンブールのテロ計画場所が明示されており、イスタンブールでは、タクシム（ベイオール区）、カドウキョイ、ゼイティンブルヌ、スルタンベイリ、カイナルジャ（ペンディク区）の区・地域、ベイオールやオルタキョイのバーやレストラン、エミノニュの港や駅・バス停、サバサンドの店が挙げられている。(4月2日付 Gazeteport 紙インターネット版)

(2)一方、ソズジュ紙は、4月1日にツイッターで最初に流れ、その後ソーシャルメディアにて急速に拡散された同文書は偽物であると報じた。(4月2日付 M 紙インターネット版)



(写真は、4月2日付 Gazeteport 紙インターネット版から)

●アタテュルク空港にドローン出現

1日、アタテュルク空港を離陸した直後の航空機のパイロットから管制塔に、ドローンが機側を通過したとの連絡があったことから、ドローンを誰が飛ばしたかについて現在捜査中。(4月3日付 M 紙インターネット版)

●イズミルで ISIL の一斉捜索

1日、全国展開中の対テロ作戦の一環として、トルコ警察はイズミル県で ISIL メンバー15名を拘束し、散弾銃4丁、ISIL 関連文書を押収した。拘束された容疑者は、2015年にアダナとメルシンの HDP 事務所に爆弾攻撃を実行したサバシュ・ユルドゥズ容疑者を訓練していたとのこと。(4月4日付 S 紙インターネット版)

●国軍兵士や警官の殺害を受け、アラ内相は PKK の壊滅を誓う

3日、マルディン県のヌサイビンで前日に国軍兵士5名と警官1名が PKK の爆弾により死亡したことを受け、アラ内相は30年にわたって政府に対する戦いを続けてきた PKK を必ず壊滅させると誓った。(4月4日付 HDN 紙1面)

●イズミルでのテロ作戦で5名が逮捕

4日、イズミルで PKK に対する捜査で8名が拘束され、うち5名は逮捕されたが、HDP ボルノヴァ区共同支部長である S.S 氏の関係者を含む3名については、当局による監視条件付きで釈放された。(4月5日付 H 紙インターネット版)

●トルコに対する攻撃を目的として PKK 主導の人民統一革命運動が結成

報道によれば、PKK が主導する9つの非合法組織等で構成される人民統一革命運動 (HBDH) は、PKK 幹部のドゥラン・カルカンを選出し、トルコ全土に対する攻撃と政治的プロパガンダを行うと述べた。HBDH は、2月23日にシリアのラタキアにおいて HBDH の第一回会合を行っていた。(4月5日付 HDN 紙3面)

●ギェルハーネ公園で壁が崩落し、2名が死亡

4日、イスタンブールのギェルハーネ公園で壁が崩落し、7

名ががれきの下敷きになった。5名が救出され病院に運ばれたが、2名が死亡した。(4月5日付 HDN 紙4面)

●ガジアンテップで ISIL 自爆テロ容疑者4名を逮捕

4日、ガジアンテップ治安当局は、自爆テロ容疑で ISIL メンバーの4名を逮捕した。この内、エルジャン・チャブクンは、ドクマジュ・グループ（トルコ国内の ISIL 組織の一つ）のメンバーであり、3月19日にイスティクル通りで発生した自爆テロなどに関与した犯人の1人とされるエルカン・チャブクンの兄弟であり、また、ISIL のガジアンテップ支部長と考えられている。また、チェビッキはアルカイダとの繋がりと見られている。(4月5日付 HT 紙16面)

●PKK は爆発物を隠した“ティーポット爆弾”を製造

ハッカリ県治安当局が PKK 戦闘員から押収した映像とビデオから、PKK がティーポットを使った手製爆弾を製造していることが判明した。ビデオによれば、戦闘員が歌を歌いながら、これらの爆弾を作る姿が収められている。(4月5日付 H 紙インターネット版)



(写真は、4月5日付 H 紙インターネット版から)

●23名の ISIL 戦闘員に42百万リラの懸賞金

トルコ内務省は、イルハミ・バル、ムスタファ・ドクマジュ、ユヌス・ドルマジュなど23名の ISIL 戦闘員指名手配犯人の逮捕に繋がる情報に対して、42百万リラ（およそ14百万ドル）の報奨金を出すと発表した。(4月6日付 HDN 紙1面)



(写真は、4月6日付 HDN 紙インターネット版から)

●ガジアンテップ国境で ISIL メンバー5名と子供7名を拘束

5日、ガジアンテップ県庁は、同県の国境で ISIL から逃れてきた12名を拘束した。裁判所にて供述の後、7名の子供を含む11名は拘置所へ送られた。キリス県でも4名が ISIL メンバーの容疑で拘束された。(4月6日付 H 紙12面)



(写真は、4月6日付 H 紙インターネット版から)

●イズミルで爆弾テロ容疑により3名を拘束

5日、イズミル県警テロ対策課及び情報課は、4月10日の警察創設記念日のセレモニーを攻撃するため、市内で爆弾テロを準備していたとして3名のMLKPメンバーを拘束した。イズミル市内ブジャ地区の民家を捜索した結果、爆弾製造のための機器や爆薬、偽のIDなどを押収した。(4月6日H紙13面)

●100名を越すFETO/PDYに対するオペレーション

5日、トルコ警察は、パラレル国家構想を企てるギュレン信奉者組織のFethullahist Terrorist Organization(FETO)/Parallel State Structure(PDY)の幹部を捕らえることを目的として、国内22県において一斉捜索を行い、拘留令状が出た120名のうち68名を拘束したが、一部は既に国外に逃亡していたとのこと。(4月6日付C紙6面)

●タクシム広場で発砲事件

6日午後、タクシム広場のアタテュルク銅像前で、男が突然上空に向かって発砲し、周囲は一時パニックとなったが、現場にいた警察官が直ちに犯人を拘束した。犯人の正体や事件の背景は不明。(4月6日H紙インターネット版)

●タクシムでのメーデー集会は不許可

イスタンブール県庁は、Memur-sen、DISK及びKESKといった労働組合による5月1日にタクシム広場での集会開催要望を認めないこととした。(4月6日付C紙7面)

●PKKに対する国外からの支援が過去最高に

6日、クルトルムシュ副首相は、PKKに対する国外からの支援がかつてないほど大きくなっており、武装した野蛮な集団が国際社会には平和の唱道者として映っていると懸念した。(4月7日付HDN紙1面)

●サバンジュ殺人事件容疑者に対する公判開始

6日、1996年に当時サバンジュ財閥のトップにいたオズデミル・サバンジュを殺した容疑者として20年にわたり逃亡を続け、2016年2月に拘束されたDHKP/Cメンバーのイスマイル・アッコールに対する公判が開始した。(4月7日付HDN紙3面)

●2015年10月10日のアンカラ自爆事件の容疑者逮捕

6日、2015年10月10日のアンカラで発生した爆弾テロに関与した疑いで指名手配中であったISILメンバーの1人であるフセイン・トゥンジュ容疑者がガジアンテップのシャヒンベイ地区で拘束された。(4月7日付H紙17面)

●自爆テロ容疑でPKKメンバーをアンカラで拘束

4月6日、アンカラでバスに乗っていたPKKメンバーの21歳女性を拘束した。警察がID検査を行っている時に見つかったもので、このメンバーは自爆テロを実行する予定であったとされるが、本人は否定している由。(4月7日付H紙17面)

軍事

●トルコ軍はクーデター計画の記事を否定

トルコ軍参謀本部は、ギュレン運動に関係のあるとされる軍メンバーがエルドアン大統領訪米中を狙ってクーデターを計画していたとの話を否定するとともに、軍のモラルを汚そうとする記事を書いた報道機関に対し法的措置を取ったと述べた。(4月1日付HDN紙1面)

●米軍がシリアにおいて対ISILのための訓練と武器の供与を再開

米国防省はシリアで活動する対ISILの特別作戦部隊を増強すべく、反政府シリア人に対して訓練と武器の供与を再開した。昨年、500万ドルをかけて穏健派シリア人グルー

プに訓練を開始したが、150人を育てたところで中止となっていた。なお、この作戦は米国がトルコでシリア人戦闘員を訓練する計画とは異なるものである。(4月1日付ロイター・インターネット版)

●トルコに撃墜されたロシア機操縦士殺害者をイズミルで拘束

3月30日、2015年11月24日にトルコによって撃墜されたロシア空軍機パイロットを殺害したとされるアルパルスラン・ジェリックが拘束された。ジェリックは、シリアで反アサド勢力として共闘したトルクメニスタン人たちとイズミルへ旅行、市内のレストランで食事中に、銃の不法所持容疑で拘束された。(4月1日付HDN紙3面、4月4日付HDN紙2面)

●PYDがプラハに代表事務所を開設

2日、PYDはチェコのプラハに新たに代表事務所を開設した。本年2月のモスクワ事務所の開設に次いで2ヶ所目。(4月4日付HT紙13面)

●初の国産戦車大量製造へ

3日、コチ・グループ傘下の民間軍事会社オトカルのアリ・コチ会長は、要請があれば、オトカルは初の国産戦車の大量製造を請け負う用意があると述べた。(4月4日付HDN紙1面)

●マンビジ奪還作戦への協力の見返りとして、トルコが米国に2つの要求

訪米中のエルドアン大統領は、オバマ大統領に対して、シリア北部マンビジ奪還のため米国主導による対ISIL攻撃にトルコが協力する見返りとして、マンビジ奪還作戦に参加予定のシリアのアラブ部族(反体制派)が、PYDの指揮下にあるシリア民主軍から離脱すること、および、シリアのマレア(Marea)にてトルコが支援しているグループに対して、米国が空からの支援を拡大させることを求めた。(4月4日付HDN紙8面)

●トルコ戦艦2艘がオデッサに停泊

3日、ウクライナ海軍との二国間会議出席のため、トルコ海軍のフリゲート艦2艘がウクライナのオデッサ港に2日間の日程で入港した。(4月5日付HDN紙8面)

●イラクのモスルにあるトルコ総領事館を空爆

4日、米国主導による対ISIL連合軍の戦闘機が、イラクのモスルにあるトルコ総領事館を破壊した。2014年以降、同建物はISIL幹部により占領されており、これら幹部が攻撃の対象となって破壊されたものであり、トルコ政府も事前に認めていたとチャヴシュオール外相は述べた。(4月5日付HDN紙9面)

●米軍や職員の家族がインジルリッキ基地を出発

2日及び3日、インジルリッキ基地に勤務している米軍や職員の家族らが、米国防省及び国務省の指示によりトルコを離れ、ドイツに向かった。(4月6日付HDN紙3面)

●シリアからの曲射砲弾がキリス県に着弾

5日、北シリアの自由シリア軍とISILとの間で衝突があり、キリス県エルベイリに曲射砲の砲弾6発が着弾・爆発したことから、トルコ軍は交戦規定に基づき発射地点に対して反撃した。(4月6日付C紙7面)

社会

●今年の春も道路が凸凹

春の訪れとともに、冬の期間に凍結防止のため散布された塩化カルシウムによって多くの道路や歩道が損傷しているのが目立つようになった。特に最近、市への苦情の多数が道路の損傷に関するものである。ある市民は、「毎年

夏前に道路や歩道の改修作業を行っているが、冬になるとまた凸凹になってしまう。なぜ我々の道路は丈夫ではないのか」と話している。(4月4日付HT紙20面)

●イスティクルル通りでフェスティバルを

3月19日にイスティクルル通りで起こった爆弾テロ発生後、ダーヴトオール首相による、テロに屈せず、日常に戻ろうとの呼びかけにベイオール区長も応えた。イスティクルル通りでインタビューを受けたデミルジャン区長は、テロの狙いは人々を家に閉じ込めることであり、その罠に陥ってはならないとして、タクシムで3-4ヶ月間継続してイベントを開催する予定であると述べた。テベバシュで行われていた骨董品祭りや伝統工芸品を展示する「黄金の手と古本フェスティバル」をタクシム広場で開催することを予定している。更に、今年、イスティクルル通りで再オープンする8つの映画館、劇場及び博物館を有する「エメッキ・シネマス」には、年間200万人の観光客の集客が期待されている。

(4月4日付M紙4面他)



(写真は4月4日付M紙インターネット版から)

●教育に新システムが導入

国家教育省は、PISA(OECDが定める国際学習到達度調査)やTIMSS(国際数学・理科教育調査)における成績改善の為に、アメリカやフィンランドなどの先進国で適用されている教育システム(STEM)導入を計画している。ハジエテペ大学の協力で、1200の教員にSTEMシステムの教育方法が伝授され、今後10万人の生徒達に授業が行なわれる予定。英語の科学・技術・工学・数学の頭文字からなるSTEMシステムでは、暗記型の従来の授業ではなく、生徒に人生の中で遭遇する諸問題に立ち向かう能力を育成することに主眼を置く。(4月6日付Mインターネット紙他)

●チューリップ・フェスティバルに特別無料バス

イスタンブール市は、4月1日から30日にかけて、今年で11回目となるチューリップフェスティバルを開催する。4月9日午後1時より、エミルギャン公園で開会式が行われ、カドゥキョイ・ギョズテペ60周年公園やスルタン・アフメット広場等でも様々なイベントが開催される。イスタンブール市は、チューリップ・フェスティバルへの交通手段として、市民向けの無料バス“LF線”を特別運行する。(4月7日付HT紙27面他)

●イスタンブールの公共交通機関利用者が激減

ハベルトゥルク紙の調査によると、アンカラとイスタンブールで3月に発生したテロ以降、イスタンブールの公共交通機関利用者が激減した。IETTの記録では、1日あたりの同機関の利用者数は、3月13日のアンカラのテロ以前には560万人であったのに対し19日のイスタンブールのテロにより、一時は過去最低の230万人に激減した。26日の利用者数は490万人まで回復しているものの、テロ以前の利用者数に比べると依然として少なく、利用者が慎重にな

っていることが窺える。なお、地下鉄の利用者数もテロ前後で約100万人から約60万人に激減した。(4月7日付D紙2面)

注：本文中の略語の正式名称は以下の通りです。

略語	正式名称	略語	正式名称
AFAD	首相府緊急災害事態対応総局	ÖSB	PKKの防衛隊
AKP	公正発展党（現与党）	OIB	首相府民営化管理庁
BDDK	銀行監督庁	PKK	クルディスタン労働党
BDP	平和民主主義党（クルド政党）	PYD	シリア民主主義連合党
BOT	建設・運営・譲渡方式	RP	福祉党
CHP	共和人民党（最大野党）	RTÜK	ラジオ・テレビ高等機構
DEP	民主党	SNC	シリア国民評議会
DHKP/C	革命人民解放党/戦線	SPK	証券取引監査院
DHMI	国家航空局	SSM	防衛産業庁
DISK	先進労働組合連合	TBB	トルコ弁護士協会/トルコ銀行協会
DTK	民主主義社会評議会	TCDD	トルコ国鉄
DTP	民主社会党	TDHB	トルコ歯科医師会
DYP	正道党	TESK	トルコ商工業連合
EDAM	経済外交政策センター	THY	ターキッシュ・エアラインズ
EPDK	エネルギー市場監督庁	TIKKO	トルコ労働者・農民解放軍
HDP	人民民主党（クルド政党）	TMMOB	トルコ・エンジニア・建築会議連盟
HSYK	裁判官・検事高等委員会	TOKI	トルコ集合住宅開発局
İDO	イスタンブール海上フェリー会社	TOMA	放水装甲車
IHH	人権・自由・人道支援団体	TPAO	トルコ石油公団
IKSV	イスタンブール文化芸術財団	TTB	トルコ医師会
ISO	イスタンブール産業会議所	TÜBİTAK	トルコ科学技術研究機構
İŞİD	イラク・レバントのイスラム国（アルカイダ系）	TÜİK	トルコ統計庁
İTO	イスタンブール商工会議所	TÜPRAS	トルコ石油精製会社
KCK	クルディスタン共同体同盟（PKK系）	TÜSİAD	トルコ産業・実業家協会
KESK	公務員労働組合連合	TÜYİD	トルコ投資家関係協会
KRG	北イラク政府	YÖK	トルコ高等教育評議会
MHP	民族主義者行動党（野党）	YSK	選挙高等委員会
MIT	国家諜報機関		

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞		英字新聞		通信社	
Akşam	A	Economist	EC	Anadolu News Agency	AA
Cumhuriyet	C	International New York Times	INYT	Agence France Presse	AFP
Habertürk	HT	Hürriyet Daily News	HDN	Cihan News Agency	CA
Hürriyet	H	Today's Zaman	TZ	Doğan News Agency	DA
Milliyet	M			İhlas News Agency	IA
Posta	P			Interpress	IP
Radikal	R				
Sabah	S				
Taraf	T				
Vatan	V				
Zaman	Z				

在イスタンブール日本国総領事館

電話：0212-317-4600、FAX：0212-317-4604、E-Mail：istanbulweekly@it.mofa.go.jp

WEB：http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html

Facebook：http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu

- トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。
- 新たに配信希望される方、あるいは今後の配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

istanbulweekly@it.mofa.go.jp

【被害】

イスタンブール邦人被害統計								
2016.4.1～2016.4.7 ※総領事館に訴出があったものを集計								
年	窃盗		詐欺		ぼったくりバー(相談)		高額絨毯購入(相談)	
	今週	通算	今週	通算	今週	通算	今週	通算
2015年		8件		6件		20件		9件
2016年	0件	1件	0件	2件	2件	7件	0件	0件

- 今週は、ぼったくりバー被害(相談)が2件ありました。

★当館HP更新のお知らせ★

- 第7回エルトゥールル号遭難事件犠牲者追悼記念行事(4/7) **NEW**
- 対日直接投資推進担当窓口の設置(4/4) **NEW**
- 治安速報：イスタンブール(03/29) **NEW**
- 【危険情報】トルコ危険情報の改訂(04/04) **NEW**